

# 景観生活-西宮編 No.1.7

## 1 景観生活とは

いつからのことでしょう、「景観」ということばを身近に耳にするようになったのは・・・。

これは、いい景観が増えたからではありません。

ひとは、無くしたものの大きさに気付いたときに始めてそういった言葉を使うものです。

西宮に暮らしていて、「景観」という言葉が気になるようになったこのごろ、ちょっとした危機感を通じて、生活のなかの「景観」を綴ることとします。

それが、「景観生活」。

## 2 景観サポーターとは

兵庫県には景観形成推進員(景観サポーター)制度があります。

県では、これまでの「景観条例」「屋外広告物条例」に「緑条例」を加え、下記、事業メニューの拡充と追加を行なっています。

### ・修景助成事業

- ・歴史的景観形成建築物修景助成 ・一般建築物修景助成
- ・工作物等修景助成 ・景観形成重要建造物等修景助成
- ・自動販売機の修景助成 ・星空景観形成助成 ・放置家屋等除却助成

### ・修景支援事業

- ・景観アドバイザー派遣 ・景観計画策定等支援

### ・景観形成等活動助成事業

- ・景観形成等住民活動助成 ・景観形成等推進員活動助成

### ・近代住宅定期点検活動助成事業

この中の景観形成等推進活動助成を受け、HPやこの冊子の制作管理を行っています。

このサイト&冊子は、西宮市景観まちづくりグループの応援団でもあります。

行政を通じてできること、できないこと、自ら市民が考えること、地域の企業が実施することなど多用な視点で、景観を考え、よりよき西宮市の景観に寄与することを願っています。



## 目次

景観生活 .....	1
関学とヴォーリズ .....	2
西宮の近代建築 .....	3
武庫大橋 .....	4
西宮で活躍した建築家 .....	8

## 西宮の景観ハイライト

- 海と山、自然と都市空間の両方が映えるまち、西宮
- 阪神間モダニズムの拠点、ハイカラ文化圏、西宮
- 神さん、お寺さん、信心と宮水のまち、西宮
- 国道に高速道路、私鉄やJR・新幹線が貫くまち、西宮
- 秘めてきらめく里山文化、西宮北部



## 関西学院大学のヴォーリズ建築について

兵庫県西宮市の上ヶ原、甲東園住宅地の高台に数万坪の敷地を持ち、約二万人の関学ボーイ、ガールが通っているといわれている。この大学の建築スタイルは「スパニッシュ ミッション スタイル\*」と言われ、昭和初期に阪神間ではやったスパニッシュ風の住宅スタイルの元祖とも言われる。西宮市ではヴォーリズ設計の住宅で、大正15年、昭和4年築が今も残っている。また宝塚市雲雀丘には旧諏訪邸(高崎記念館大正12年築、ただしコロニアルスタイル)が古い。

\*スパニッシュ ミッション スタイルとは、スペイン支配が続いたカリフォルニアで生まれたスタイルでルーツは教会建築であるが、公共建築から住宅に広がり、スタイル化した。現代では緩勾配・暖色の洋瓦をのせ、壁面部分の多いスパニッシュスタイルは、おおらかな癒し系ともいえ、万人の好むスタイル。

ヴォーリズ作品の中でも関学建築群の存在感は大きく、良質なデザインのキャンパスとして日本中でも双璧である神戸女学院が並んで、この西宮市に存在することは誇れる事実であろう。

神戸女学院が岡田山の林に隠れて神秘性があるのに比べると、関学学舎は開放的で、周辺の住宅地と垣根の低い関係をもっていることは双方の大きな違いである。

## 「国内でも破格のヴォーリズ活躍の場、西宮、その質と量」

### 西宮市の都市景観形成建築物(指定年)

濱甲子園倶楽部会館、山本清記念会館、西口邸(2011)  
 夙川カトリック教会聖堂(2009)  
 神戸女学院 講堂・総務館、図書館、文学館、理学館及び音楽学部一号館(2008)  
 聖和大学4号館及び旧宣教師館(1995)  
 今西邸、芝辻邸、細木邸(住宅)(1993)  
 武庫川女子大学甲子園会館-旧甲子園ホテル(1990)  
 関西学院大学 図書館及びランバス記念礼拝堂(1990)

### 兵庫県の景観形成重要建造物(指定年)

武庫川女子大学甲子園会館(旧甲子園ホテル、2009)  
 関西学院大学時計台及びランバス記念礼拝堂(2006)

関学は、元々は神戸市東部の現在の王子公園(原田学舎総45棟)に明治22年に創設され、約40年その地で経た後、ヴォーリズの本格的に組織的な設計作品のスタートがこの関学で昭和4年に切られたことは西宮の歴史にも深く刻まれるべき史実である。

関学は、明治23年にアメリカの南メソジスト監督教会(プロテスタント教会・教派)の伝導事業で創設され(ランバス)、後にカナダメソジスト教会が加わる。要するに北米の建築文化がそのまま持ち込まれた一環にヴォーリズが現れる。

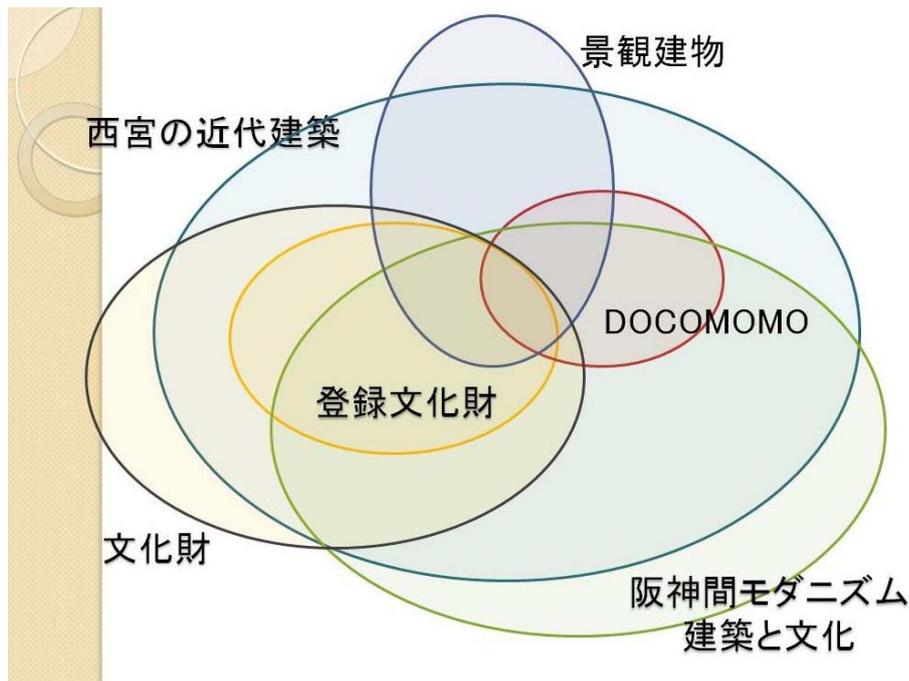
原田学舎では煉瓦造りだった学舎は、大正12年の関東大震災を教訓に鉄筋コンクリートになって上ヶ原に登場する。

大学の開校は昭和9年。当時は25棟の学者郡+16棟の教員住宅でのスタートであった。キャンパスのテーマは、見てそのまま、甲山を背景に広場を囲んで学舎が広がる象徴的な配置構想。

関学のスクールモットー“Mastery for Service”(自己修養と献身)のもと、赤いスパニッシュ瓦と明るく暖かい色調の外壁が印象的な建築群である。

開校当時は建物が目立っていたが、今は植栽がおおらかに建物に陰を与えているのは80年の歴史を感じさせる。

建物は多くがシンメトリーで、また多くが正面中央や側面に庇や彫刻でその建物を印象づけるモチーフが配されている。



西宮の近代建築を考えるとときのキーワードを示します。

## 西宮の近代建築について

### 近代建築とは？

近代に建てられた建築物で、文化財的には近代化遺産とも言われます。近代とは、概ね、幕末～第二次世界大戦期を指し、江戸時代などの近世と現代の間です。土木遺産も含み、'06兵庫県調査によると、西宮市には土木遺産含むと約150件があります。土木遺産とは、例えば、JR二見町マンボウ、仁川砂防堰堤、ニテコ水源施設、甲陽園地下壕群、夙川橋、武庫大橋、などで、その他に西宮砲台や茅葺き古民家も近代化遺産に数えられます。

### 阪神間モダニズムとは、

1900年代から1930年代にかけて、主に六甲山系と海に囲まれた阪神間(神戸、芦屋、宝塚、西宮、伊丹、尼崎など)の郊外住宅地で育まれた、近代的な芸術・文化・生活様式とその時代状況を指す。ハイカラでモダンなスタイル。

### DOCOMOMOとは、

ドコモモと読み、1988年に設立された近代建築の記録と保存を目的とする国際学術組織。本部と40か国以上に設けられた支部があり、本部はフランスのパリ。西宮市にあるDOCOMOMO Japan選定の建物の例は、今のところ、浦邸('56)、白鹿館('30、2011年春解体)、シトー会西宮の聖母修道院(村野藤吾'69)、甲子園大運動場(阪神甲子園球場)('24)、正面のない家(坂倉準三建築研究所大阪支所'62)です。

### 登録文化財とは、

近代建築を、指定文化財などとは違う観点で、活用しながら、比較的緩やかに守ろうとした制度でもあり、その登録の条件は、

50年以上経過し、守る意志がある場合、みんなの支えを得て、下記、三つの内の少なくともひとつの価値があるものです。

- 技術・デザインが優れている
- 意義・ゆかりが登録に値する
- 景観形成における貢献

### 西宮市の文化財(登録年)

■西宮市の登録文化財(建造物)は6カ所(2010/9月)  
 神戸女学院大学(音楽学部一号館、講堂・総務館・チャペル、図書館、文学館、理学館/2009登録)  
 関西学院大学時計台(2009)  
 武庫川女子大学甲子園会館(旧甲子園ホテル)(2009)  
 浦家住宅(2007)  
 旧山本家住宅(山本清記念財団会館)(2007)  
 松山大学温山記念会館(2006)

### ■西宮市のその他の文化財 国の重要文化財

西宮神社表大門 西宮神社大練堀

### 兵庫県の指定文化財

旧辰馬喜十郎住宅(1982)、八幡神社本殿(若山町・1990)

### 西宮市の指定文化財

公智神社神輿殿、今津灯台  
 八幡神社本殿、神呪寺仁王門  
 海清寺三門、旧辰馬喜十郎住宅

### 近年、失った近代建築

ウィルキンソン炭酸工場の技師住宅(解体済、M20築のコロニアルスタイル)

旧芝川邸(武田五一設計、T12築、明治村へ移築して登録文化財に)

阪急西宮球場(2007年解体)、三泉寮(2008年解体)、料亭播半(2010年解体)、白鹿館(2011年解体)

## 武庫大橋と周辺の歴史

大正8(1919)年 阪神国道着工  
大正9(1920)年 武庫川改修着工  
大正12(1923)年 関東大震災  
大正13(1924)年 甲子園球場開業  
大正15(1926)年 武庫大橋竣工  
翌年、阪神国道開通  
昭和5(1930)年 甲子園ホテル  
昭和7(1932)年 増田淳設計 鳥羽大橋(国道1号線・京都南区・鴨川・RC造アーチ橋)  
昭和9(1934)年 増田淳設計 伊勢大橋(国道1号線・桑名市・長良川、揖斐川)下路ランガートラス鋼橋/トラスを上弦のアーチで吊る構造)  
昭和35(1935)年 大阪タイガース(現阪神タイガース)誕生  
昭和20(1940)年 金属供出により、高欄・照明ポール等撤去  
昭和50(1975)年 阪神国道電車が廃止、軌道撤去  
平成5(1988)年 7月、修復並びに周辺整備が完成  
平成7(1993)年 阪神淡路大震災・被災。欄干の一部を損壊、修復  
平成15(2003)年 兵庫県建築士協会誌掲載  
平成18(2006)年 土木学会選奨土木遺産に認定  
兵庫県近代化遺産調査報告書掲載



### 参考文献

兵庫県近代化遺産調査報告書  
2006年「武庫大橋」  
文：西川卓志・村瀬佐太美  
兵庫県建築士協会誌「つどい」兵庫探訪93 2003年8月号  
文：東かずえ  
「尼崎地域史事典」尼崎市  
「よみがえらそう美しき武庫大橋」近畿地方整備局兵庫国道工事事務所  
「武庫大橋及び周辺景観整備資料作成業務報告書」近畿地方建設局兵庫国道工事事務所、五洋建設株式会社  
「土木史研究講演集vol.23」橋梁技術者・増田淳の足跡 福井次郎  
当初設計図(国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所提供)  
アーチ橋、増田淳などWikipediaなどwebより

## 武庫大橋

武庫大橋(分野:道路施設橋梁)  
所在地:尼崎市稲葉荘~西宮市戸崎町  
管理者:近畿地方整備局阪神国道事務所  
設計者:増田淳橋梁設計事務所  
増田 淳(1883-1947年、高松生まれ)  
構造:RCアーチ・RC桁橋、橋長207.4m、幅19.8m  
竣工年:大正15(1926)年



土木学会選奨土木遺産2006年



## 幹線道路の整備と武庫川改修

武庫大橋は、武庫川の下流、尼崎市-西宮市間にかかるRC造「開腹アーチ橋」で、大正15年に、阪神国道(現国道2号)の改修に伴い建設された。武庫川は丹波篠山を源流に大阪湾に注ぐ延長65km、流域面積496km<sup>2</sup>の2級河川で、国道改修は、氾濫を繰り返していた武庫川の河川改修の必要に、当時、大阪-神戸間の二大都市を結ぶ幹線道路の根本改修が急務であったことが加わり計画されたものである。

結果、県は水害を多発する武庫川分流の「枝川」と枝川分流の「申川」を廃川にして新しく土地を生み出し、その売却金で武庫川堤防と国道の改修費に充てる案を策定した。工事は県直営で1920(大正9)年に現JR線以南の5kmの第1期工事に着工。

1922(大正11)年に廃川跡地から道路敷を除いた73.92haを阪神電鉄に払い下げ、阪神電鉄はその地を西宮七園のひとつ「甲子園」として球場等の運動施設・遊園地・住宅地として整備し、このあたりに新しい界隈に新開地「武庫川デルタ」ができあがる。

## 工事記録から

当時の阪神国道改築工事概要書によると「*河川の流水を阻まず、明媚なる環景と現今及び将来における幾多の施設に調和せしむべく慎重に考慮し、なお関東大震災による耐震耐火上における実績に鑑み、堅牢雄大にしてかつ縮洒たる開胸壁式拱橋を橋の主体に採用せり*」とある通り、構造設計意図が明瞭で、その上意匠的にも様式美にあふれた橋といわれている。まさしく大正時代である。また、「*本県管内最長最麗の橋梁なり*」と紹介されたようにその姿は、北方の六甲山系をバックに南方の大阪湾に映える、印象的で唯一無二の存在感がある橋となって今も地域の誇りとなっている。夕暮れ時など天空広く見える立地で時間の移ろいをここで感じる。

工事は大阪府と兵庫県が国から補助を得て計画、途中、阪神電車から電車軌道敷設願いが出され、幅員約27m、中央部5.5m幅を軌道とし、その外側各7.2mを車道、さらにその外側各3.6mを歩道とする計画へと変更され着工する。

よって武庫大橋は、人・車・電車が通行する「併用橋」となった。よって、設計荷重には、トレーラーや工用ローラー等に配慮し12tから15tが見込まれ、その上電車33tが考慮されているとはかなり大荷重に耐える計算である。

## 設計者 増田淳

武庫大橋の設計および工事監理は、約15年間にわたるアメリカ滞在で実績を残して帰国し、一時兵庫県嘱託技師を勤めた増田淳を顧問とし、西宮工営所があたった。

増田の設計は、架橋地の条件に合わせて多種類の構造を自由自在に駆使し、コスト面、耐震性にも配慮しながら、あたかも風景と調和した多彩さが特徴で、全国各地で橋梁設計にかかわった。

兵庫県ではこの武庫大橋、加古川橋、神戸第一運河橋、苅藻島運河橋等を設計し、前二基が現存する。また近在では京都市南区の鴨川にかかる鳥羽大橋がよく似た雰囲気を持っているのでぜひご覧になってほしい。

全体のデザインは、街路橋であり、当時郊外住宅地として大開発がもくろみられていた周辺施設や景観形成にも寄与したもので、意匠性、象徴性が非常に高い。また、関東大震災の影響で耐震耐火を十分に配慮し、堅牢でありながら軽快な外観を呈するアーチと桁間に空隙をもつ「開腹式アーチ」を採用している。



「金属供出や震災で苦勞しました。でも、今は大事にされています。」

## 阪神モダニズムと武庫川デルタ地帯

明治後期に阪神電鉄は、郊外生活が人々の健康に適していると考え「阪神間モダニズム」の考えに則り、武庫大橋を含む河川改修工事を兵庫県と共に行い、それによって生み出された土地(右岸下流側)に甲子園球場(1924)が、さらに右岸上流側には東京の帝国ホテルと並び称せられた甲子園ホテル(1930)が建設されるなど、武庫川改修流域「武庫川デルタ地帯」は、大都市郊外における緑豊かな庭を持つ閑静でハイカラな生活様式が早くから取り入れられた地域として西宮南部の景観を印象付ける地域へと成長していく。

かつて、「本県管内最長最麗の橋梁なり」と賞賛された武庫大橋が、昭和20年に高欄・照明ポール等の鋼材を供出したため、戦争による点晴を失った悲しい姿が続く。その平成5年に修復工事が行われ美しい姿をとりもどしたという。が、直後の平成7年、阪神・淡路大震災に見舞われる。

幸い災禍は、高欄部分の一部損壊に留まったため、短期間に復旧している。が、今見ると、その復旧の手法は簡便に過ぎる部分が多々あり、武庫大橋の文化財性に敬意を払った修復になっていないことは少し残念といえる。石塊は薄い張り石になり、鋳物の埋込みマークも一時しのぎの修復で、また現在もいたるところで劣化によるほころびやいたづらによる落書きがこの橋を汚して、橋という大構造物であるが故の細かいところに眼が届かない状況であり、西宮市民としてもとても残念である。

単に岸と岸をつなぐ存在から超越し、遠方から西宮に帰り着いたとき、日頃何気なく通り過ぎるときにもその美しさは西宮市民の誇りであり、大事にしたいモノである。



## 武庫大橋の景観について



撮影：土佐道子

## 都市のオアシス

西宮、尼崎、宝塚など阪神間を代表する都市を悠々と流れる武庫川とその河川敷の風景は都市のオアシスとして周辺の住民に親しまれている。その川に架かる数々の橋の中でもひととき目を引く威風堂々とした橋がこの武庫大橋であろう。石材が醸し出す堅牢さとアーチの連続による軽やかさを合わせ持つこの橋は、夕暮れになると欄干に設置された幾つもの街灯が暖かいオレンジ色の光を放ち、河川敷をジョギングする市民や車窓からの眺めを楽しむ通勤客の心を癒している。

## 交流の架け橋

“橋”は人々の交流の象徴としてユーロ紙幣のデザインにも採用されている様に、この武庫大橋は80年以上もの間、かつて大大阪と称された大阪から尼崎に広がる工業エリアと阪神間モダニズムと唄われた住宅地を行き交う人々の交流の架け橋として重要な機能を果たしている。阪神国道電車が廃止される以前は、大阪方面から電車に乗って鳴尾のいちご狩りに訪れる観光客にとっての架け橋にもなっていたのであろうか。

さて、武庫大橋周辺の風景に目を向けてみると、大阪方面から神戸方面に向かうとちょうどこの橋に差しかかる頃、工業エリアと住宅地を結ぶ架け橋であることを証明するかの様に、高層ビルの風景から広い空が一気に開けて河川敷の松林とその向こうに広がる六甲山地の風景へと変化する。

## 桜並木と松並木

また、この橋は西宮市と尼崎市の市境にあり、川の兩岸を見比べてみると西宮側には遊歩道と松林、尼崎側には野球やテニス場と桜並木が整備されている。つまり西宮側の河川敷からは対岸の桜並木、尼崎側からは対岸の松林と六甲山地を望むことが出来、一つの川で2つの異なる風景を楽しめるというのも面白い。

特に夕暮れの尼崎側河川敷から川越しに見る松のシルエットと夕日に染まる六甲山地の眺めは一幅の絵の様に美しい。

橋を歩き来してぜひこの二つの異なる風景を楽しんでみたいのだが、現在武庫大橋を通る国道2号線は阪神間を結ぶ交通の大動脈となり、橋は車の往来が中心でゆっくり歩いて橋を渡る人をほとんど見かけない。その為に人々が対岸の風景とこの橋自身の数々の魅力を堪能する機会が少なくなってしまったのは残念である。



## 松のシルエットと、夕日に染まる六甲山地の眺めは、まるで一幅の絵

ゆっくり歩いて橋を渡ってみると甲子園会館の意匠にも影響を与えたのではないかと感じさせる橋のたもとひときわ大きなアールデコ調の街灯、欄干の繊細な格子デザイン、橋から張り出したバルコニー、などこの橋には歩行者を楽しませる仕掛けが随所に施されていることがわかる。バルコニーは橋の両端の南側と北側合計4つ配置されているが、北側のバルコニーからは甲子園会館の塔とその周辺の緑が見え、橋の完成から数年後にオープンする甲子園ホテル(現 甲子園会館)を橋から人々がゆっくり眺められる様という配慮が感じられる。

古き良き昭和初期、北側のバルコニーからは木立の間からホテルの窓の灯りや華やかなパーティーの様子がうかがえたのかもしれない。またその当時、南側のバルコニーからは甲子園の一大リゾート地も望めたことだろう。

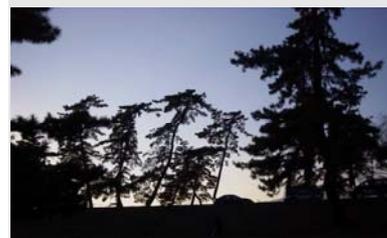
この様に昔の風景に思いを馳せながら改めて武庫大橋を見てみると、橋に求められる基本事項である強度に加えてデザインの優美さと周辺の風景への細やかな配慮を見事に融合させたこの橋の設計者の力量を感じずにはいられない。大正、昭和、平成と引き継がれて来たこの郷土の遺産を大切に守っていききたい。

土佐 道子 (とさ みちこ)

一級建築士事務所 土佐空間デザイン 代表

兵庫県建築士会まちづくり委員会 委員

H.P. <http://www.tsdesign-kobe.com/>



西宮で活躍した建築家 例

**木子七郎 1884 - 1955**

松山大学温山記念会館S3

**ヴォーリス 1880 - 1964**

関学、神女、聖和大、住宅など  
S1~10

**村野藤吾 1891 - 1984**

シトー会西宮トラピスチヌ修道院  
S44、西宮市商工会館)

**岡田孝男 1898 - 1993**

山本清記念財団会館S12

**吉阪隆正 1917 - 1980**

浦邸S31

**西澤文隆 1915 - 1986**

住宅

## その他の西宮の近代建築

六英堂(M初 岩倉具視の私邸の一部)

今津六角堂(M15・移築、改装あり)

阪急甲陽園駅駅舎(S造 T13)

武庫大橋(T15 増田淳)

旧多聞ビルディング(久保町 古塚正治 大林組 SRC S3)

辰馬本家酒造白鹿館(前浜町 竹中工務店(石川純一) 竹中工務店 RC S5)

鳴尾変電所(里中町 RC S5)

夙川カトリック教会(S7 梅木省三)

濱甲子園倶楽部(S7 大林組)

神戸女学院 旧室谷邸茶室 松風庵(S15? 平田雅哉、移築)

正面のない家/坂倉準三建築研究所大阪支所・1962年



景観生活【西宮編】 2021年度 Version1.7(WEB用)

Copyright © 2010- All Right Reserved. 景観生活-西宮編 無断転載はご遠慮ください。  
この冊子は兵庫県景観形成支援事業景観形成等活動助成金により発行しております。  
西宮の景観文化を思い、拙い知識で綴っております。お気づきの点ありましたら下記まで、ぜひお知らせください。

事務局：  
和の住まい設計

<http://www.kazabito.com>